



## 2019年6月期企業動向アンケート調査(第97回) ～今期は前期比やや悪化、来期は今期比改善の見込み～

- アンケート回答企業の今期（4～6月期）の業況判断D I（全体）は「▲10」と、前期比1 P悪化した。来期（7～9月期）の見通しは「▲2」と今期比8 P改善の見込み。
- 業種別では、製造業を除く全業種で前期比悪化し、サービス業は「▲16」とマイナス幅が拡大した。来期は、全ての業種で改善が見込まれ、サービス業が「0」になるほか、建設業はプラスの幅が拡大する見通し。
- 資金繰りD Iは、全体で前期比横ばいとなり、設備・店舗等D Iは、「不足」の度合いが前期比縮小した。雇用者数D Iは、全体で「不足」が前期比やや改善したものの、依然不足感が強い。
- 今年の夏季賞与支給（見込み）総額は、前年比「横ばい」が最も多く、1人あたりの平均支給倍率は1.49倍、平均支給額は31万円であった。
- 2018年度の採用者数は、全体で2,054人、うち、県内出身者は1,539人、外国人が59人であった。業種別では、サービス業が1,028人（うち、県内828人、外国人3人）と最も多い。採用者の履歴では、「中途採用」が1,544人（うち、県内1,103人、外国人55人）と最も多かった。
- 大型連休の影響は、全体で「影響はない」が最も多い。好影響では、催事・宿泊・飲食の集客増、悪影響では、生産・物流の停滞などがあつた。

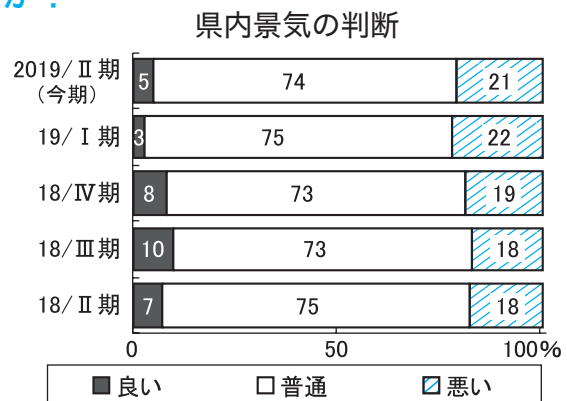
＜全般的業況判断D Iの動き＞

業種	D I		
	前期	今期	来期見通し
全体	▲ 9	▲ 10	▲ 2
製造業	▲ 16	▲ 9	▲ 5
建設業	10	2	6
卸小売業	▲ 17	▲ 18	▲ 6
サービス業	▲ 2	▲ 16	0

### ○ 現在の県内景気をどう見えていますか？

#### ＜「普通」が74%＞

県内景気の判断は「普通（74%）」「悪い（21%）」「良い（5%）」で、前期と比べ、「良い」が2 P上昇した。今期の回答企業の業況判断D Iは前期比やや悪化したものの、来期の業況は改善が見込まれることから、県内景気の判断には慎重ながら、やや上向く気配がうかがえる。



## —アンケート調査の概要—

実施期間：2019年6月1日～6月17日

対象先：県内に本社または支店等を有する企業（600社）

内容：①景況判断

②自社の業況

③2019年夏季賞与支給状況について

④2018年度（18年4月～19年3月）の採用者数について

⑤大型連休の影響について

※本文中の図9、11、12は、四捨五入の関係上、内訳の総和が必ずしも100%にはならない。

調査方法：郵送によるアンケート

回収状況：回答企業278社（回答率46.3%）

※本調査は、当所と宮崎県が共同で実施し、調査結果は県政にも活用されることになります。

### <回答企業内訳>

		業 種				資 本 金		
		製造業	建設業	卸小売業	サービス業	3千万円未満	1億円未満	1億円以上
企業総数	278 100.0%	86 31.2%	66 23.9%	70 25.4%	54 19.6%	138 53.5%	102 39.5%	18 7.0%
県 央	129 46.7%	24	30	40	35	60	50	8
県 北	66 23.9%	20	20	15	11	32	26	5
県 南 西	81 29.3%	42	16	15	8	46	26	5

注）業種、資本金、所在地の未記入企業があり、総数と一致していない。下段は企業構成比率。

### <所在地区分>

県 央：宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡

県 北：延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡

県南西：都城市、小林市、えびの市、日南市、串間市、北諸県郡、西諸県郡

### <業種区分>

サービス業には、製造、建設、卸小売業以外の業種を含む

### <文中の用語>

前期：2019年3月期調査

今期：2019年6月期調査

来期：2019年9月期調査

I期：1～3月、II期：4～6月

III期：7～9月、IV期：10～12月

### DI (Diffusion Index)

「好転・増加・過剰」の回答割合(%)－「悪化・減少・不足」の回答割合(%)＝DIで、景気動向を判断する指標のひとつ。

P：ポイント

## 1. 全般的業況判断

(前期比)

(表1、図1)

### <悪化傾向>

今期の全般的業況DI(「好転」-「悪化」)は全体で「▲10(前期比1P悪化)」と、2期連続で悪化した。

業種別では、製造業でDIが前期比改善したものの、建設業、小売業、サービス業は悪化した。

従業員別は199人以下の企業で悪化し、資本金別では「3千万円未満」「1億円以上」で悪化となった。

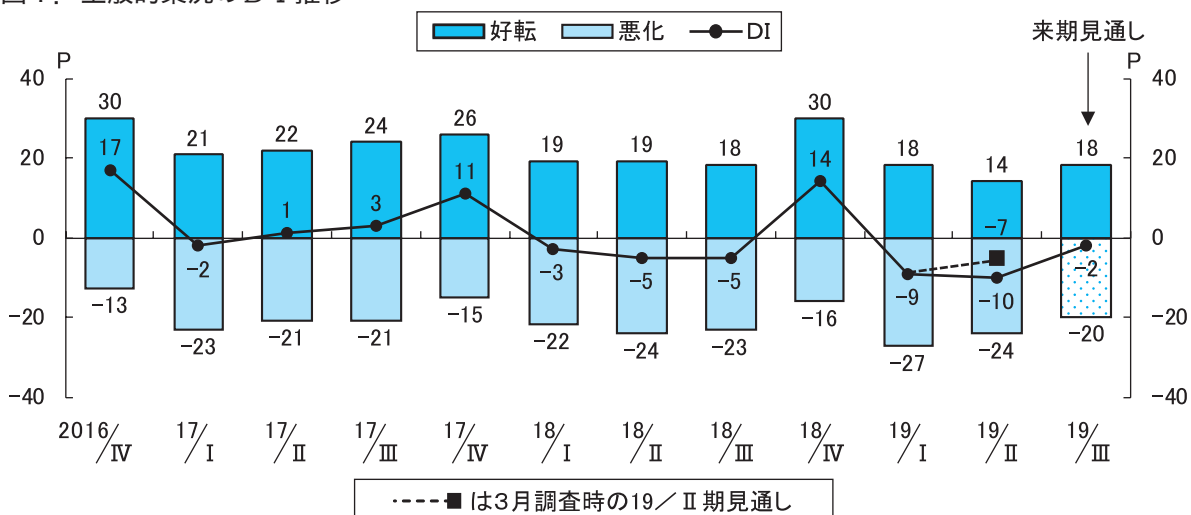
表1. 今期の全般的業況(業種別・規模別)

単位: %、ポイント

項目	業況	好転(A)	悪化(B)	今期DI(A)-(B)	前期DI
全体(278)		14	24	▲10	▲9
業種	製造業(87)	16	25	▲9	▲16
	建設業(66)	17	15	2	10
	卸小売業(70)	13	31	▲18	▲17
	サービス業(55)	9	25	▲16	▲2
従業員	50人未満(153)	14	26	▲12	▲11
	50~99人(60)	8	18	▲10	0
	100~199人(29)	14	24	▲10	▲9
	200人以上(33)	24	27	▲3	▲16
資本金	3千万円未満(139)	13	29	▲16	▲15
	1億円未満(103)	14	18	▲4	▲4
	1億円以上(18)	22	28	▲6	▲5

不明分は除く、( )は回答企業数

図1. 全般的業況のDI推移



## 2. 業種別DI

業況(前期比)、売上・利益(前年同期比)

○製造業(図2、次頁表2)

### 前期比改善

今期の全般的業況DIは、前期比7P改善して「▲9」となった。分野別では、食料品・飲料、繊維製品は改善したが、金属製品、化学製品、窯業土石は、「受注の減少」「原料費の高騰」などから悪化した。

来期は、「受注増による増産」や「季節商品の売上増」等により、DIは「▲5」と4P改善の見込み。

図2. 製造業DI

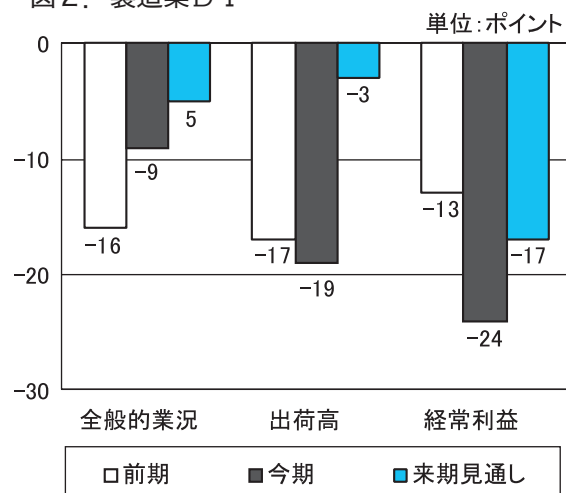


表2. 製造業9分野における業況DI

単位：%、ポイント

分野	好転	不変	悪化	今期DI	前期DI
食料品・飲料	21	58	21	0	▲ 45
繊維製品	25	75	0	25	▲ 20
木材木製品	17	67	17	0	0
化学製品	0	100	0	0	33
窯業土石	0	67	33	▲ 33	0
機械器具	0	100	0	0	0
金属製品	0	43	57	▲ 57	▲ 14
電気電子部品	25	0	75	▲ 50	▲ 50
その他製造業	18	57	25	▲ 7	0

### ○建設業 (図3)

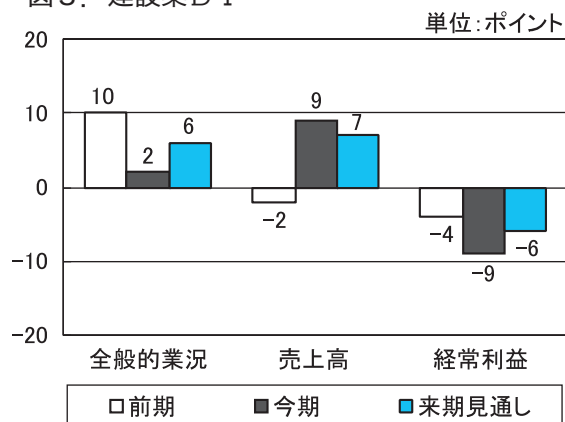
#### 前期比悪化するもプラスを維持

今期の全般的業況DIは、8P悪化したものの「+2」とプラスを維持した。

「防災・減災工事を受注」「民間設備投資を受注」等「好転」の回答が一部にある一方、「資材不足」「消費税率引き上げを見越した競争の激化」「受注の減少」など、「悪化」の回答も多かった。

来期は、「資材不足」等、「悪化」の回答があるものの、「大型案件や公共工事の受注」等、「好転」の回答がより増加し、DIは「+6」とやや上向き見込み。

図3. 建設業DI



### ○卸小売業 (図4)

#### 前期比ほぼ横ばい

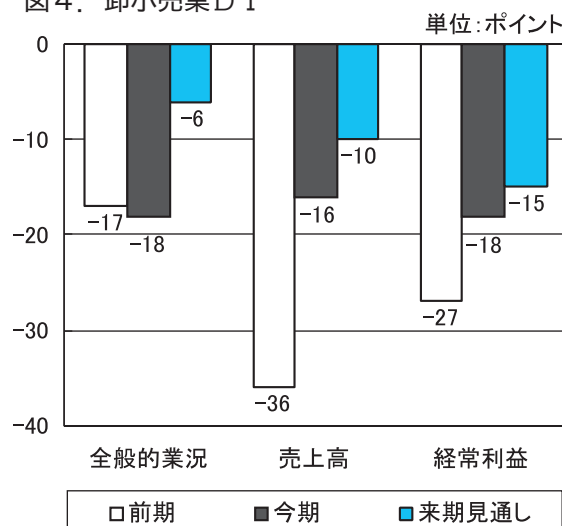
今期の全般的業況DIは「▲18」と、

前期比ほぼ横ばいであった。

「新商品や季節商品の売上増」などから「好転」の回答も一部にみられたが、「燃油販売量の減少」「前期並みの売り上げ」など、「悪化」「不変」の回答もあった。

来期は、「競合店の出店」「仕入れ単価の上昇」などで「悪化」を見込む回答が多いものの、「消費税率引き上げ前の需要増」など「好転」の回答もあり、DIは「▲6」に改善する見込み。

図4. 卸小売業DI



### ○サービス業 (次頁図5)

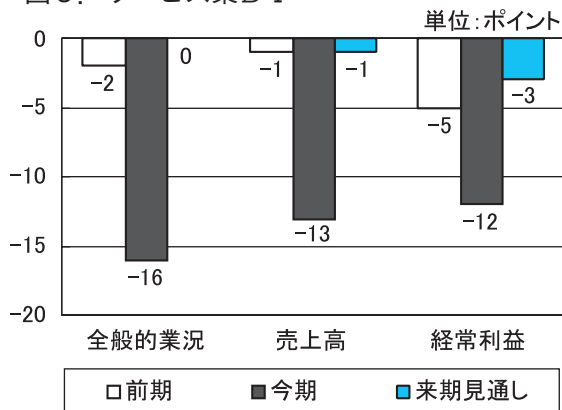
#### 来期は改善の見込み

今期の全般的業況DIは「▲16」と、前期比14P悪化した。

「人手不足による受注減」「長期連休による稼働日数の減少」「業務の縮小」など、「悪化」の回答が増えた。

来期は「人件費の増加」等、「悪化」の回答があるものの、「夏休みの需要増」「消費税率引き上げ前の駆け込み需要」「業務の拡大」等、「好転」も多く、DIは「0」とマイナスが解消する見込み。

図5. サービス業D I



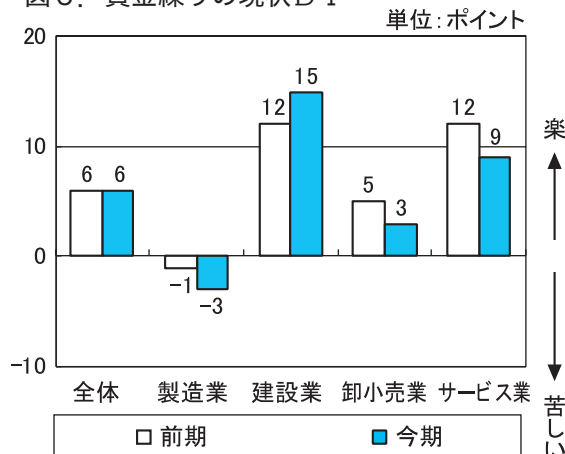
### 3. 資金繰りの現状 (図6)

#### 全体では変わらず

資金繰りの現状D I (「楽」-「苦しい」)は、全体で「+6」と前期比横ばいとなった。

業種別では、建設業が前期比改善し、製造業、卸小売業、サービス業はいずれも悪化した。

図6. 資金繰りの現状D I



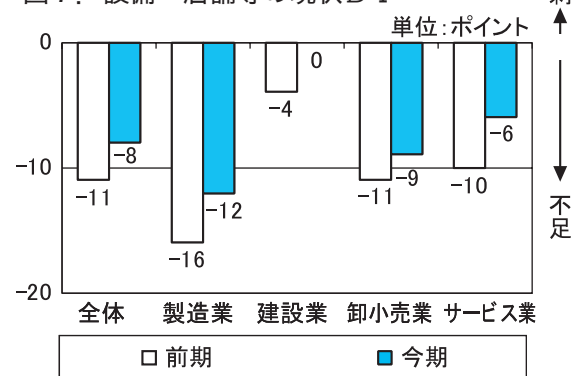
### 4. 設備・店舗等の現状 (図7)

#### 前期比改善

設備・店舗等の現状D Iは全体で「▲8」と、前期比3P改善した。

業種別でも、全ての業種で前期より「不足」の幅が縮小し、建設業は過不足感が解消した。

図7. 設備・店舗等の現状D I



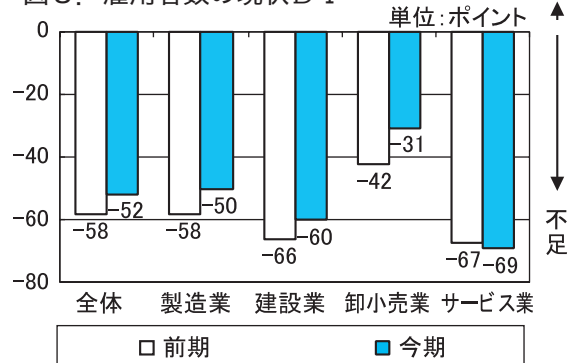
### 5. 雇用者数の現状 (図8)

#### 不足の状態は変わらず

雇用者数の現状D Iは、全体で前期比6P改善の「▲52」となった。

業種別では、サービス業を除く全業種で改善がみられたが、依然として不足感が強い。

図8. 雇用者数の現状D I



### 6. 2019年夏季賞与支給状況

(次頁図9、表3)

#### 支給額は前年と変わらず

2019年夏季賞与支給(見込み)総額は、全体で前年比「横ばい(56.9%)」が最も多く、業種別では、建設業の64.6%が「横ばい」と回答した。「支給しない」はサービス業で12.7%あった。1人当たりの平均支給状況は、全体の倍率が「1.49倍」支給額は「31万円」で、前年並みとなった。

図9. 2019年夏季賞与支給（見込み）  
総額（前年比）

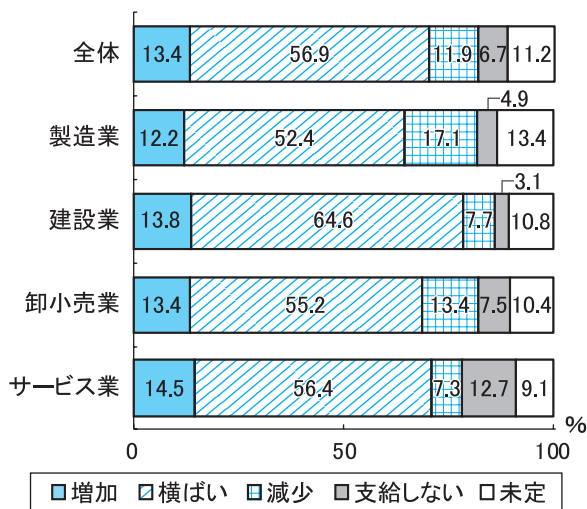


表3. 2019年夏季賞与支給（見込み）  
1人あたり平均支給状況

単位：倍、万円

業種	賞与		支給額	
	2018年	2019年	2018年	2019年
全体	1.49	1.49	31	31
製造業	1.45	1.54	28	32
建設業	1.57	1.50	36	35
卸小売業	1.58	1.40	32	29
サービス業	1.34	1.52	30	29

（「支給なし」「未定」「不明分」を除いた企業(221社)の平均値）

## 7. 2018年度の採用者数（表4、図10）

### 「中途採用」が最多

2018年度の採用者数は、全体で2,054人、「うち、県内」が1,539人（構成比74.9%）、外国人は59人（同2.9%）となった。

業種別では、サービス業（1,028人）が最も多く、製造業（632人）と続いた。「うち、県内」の採用者数は、各業種で採用全体の7～8割を占めた。外国人は製造業が48人を採用した。

履歴別では、「中途採用」が1,544人〔うち、県内は1,103人（構成比71.4%）〕となった。外国人採用は、わずかにとどまった。

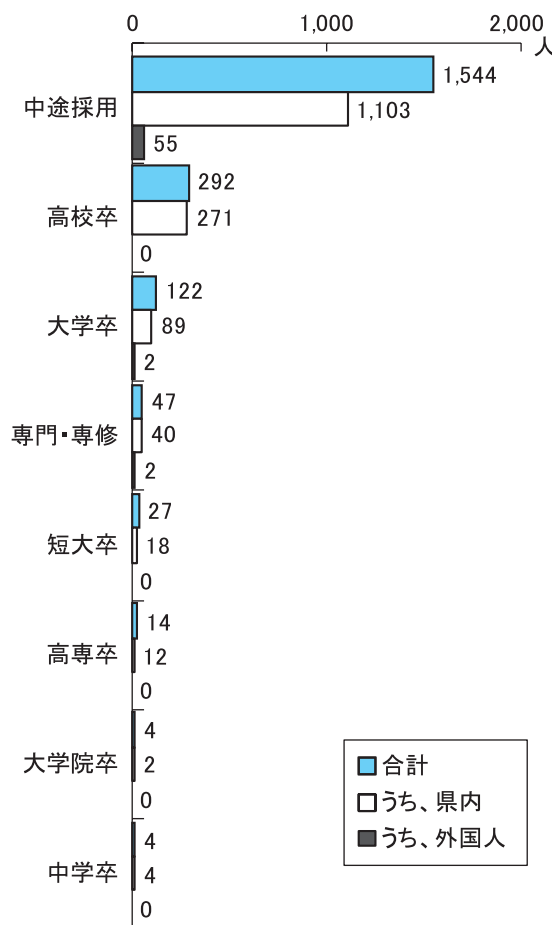
表4. 2018年度の採用者数（業種別）

単位：人、%

業種	採用者数		
	全体	うち、県内	うち、外国人
合計	2,054	1,539 (74.9)	59 (2.9)
製造業	632	412 (65.2)	48 (7.6)
建設業	192	150 (78.1)	7 (3.6)
卸小売業	202	149 (73.8)	1 (0.5)
サービス業	1,028	828 (80.5)	3 (0.3)

（企業数：179社）

図10. 2018年度の採用者数（履歴別）



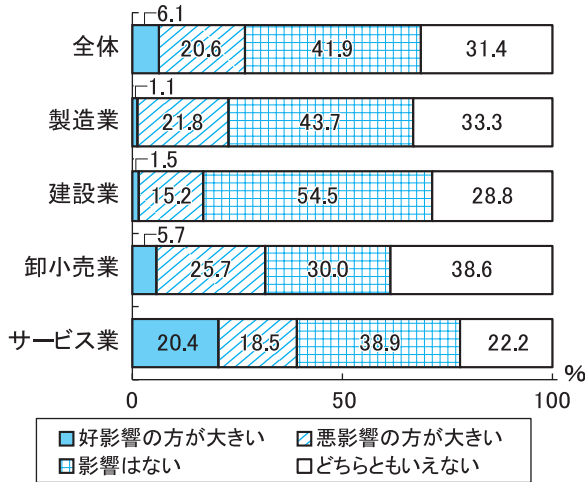
（企業数：179社）

## 8. 大型連休の影響（次頁図11、12、表5）

改元に伴い10日間（4月27日～5月6日）となった大型連休の業況への影響は、全体で「影響はない（41.9%）」が最も多く、業種別では建設業の54.5%が影響はないと回答した。「悪影響の方が大きい」は全体の20.6%で、業種別では、卸小売業（25.7%）が最多だった。

「好影響の方が大きい」は全体の6.1%で、業種別ではサービス業(20.4%)が突出して多かった。

図11. 大型連休の影響



好影響の度合いでは、サービス業が「やや好影響があった(36.8%)」「かなり好影響があった(21.1%)」ともに多く、宿泊、飲食、催事などの意見が挙げられた。

悪影響の度合いでは、「やや悪影響があった」は建設業(62.5%)、「かなり悪影響があった」は製造業(45.5%)が最も多く、工期の遅れ、生産低下、物流の停止、人員確保難、代金収納の遅れなどの意見があった。

図12. 好影響、悪影響の度合い

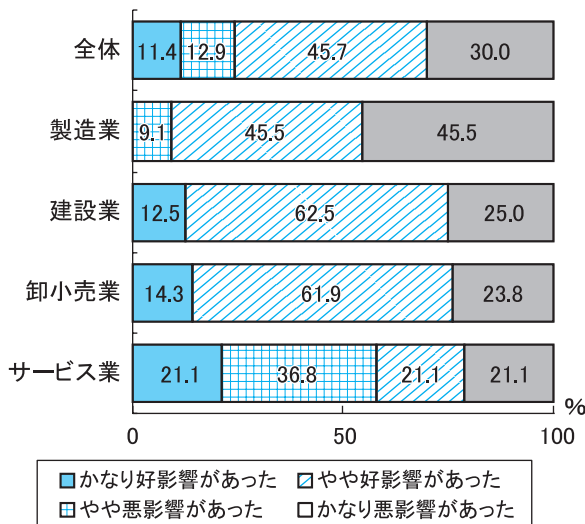


表5. 影響の内容

好影響の内容
催事による集客の増加
宿泊客で満室状態が続いた
飲食部門の増収
旅行予約等の売上増加
緊急の災害復旧工事あり
観光客の増加
売上の増加
悪影響の内容
取引先の休業で物流が止まった
工期の遅れ
設備稼働日数の減少による生産減
休日出勤社員の士気低下
代金収納の遅れ
納期の前倒しによる負担増
連休前の仕入を増やし、過剰在庫になった
休日増加による、売上の減少
人員確保が困難
生産・物流・賞味期限の調整に手間取った
事務処理の不具合が発生
納品の延期
残業の増加
商談の進捗の遅れ

今回の調査では、今期の業況判断DIが前期比やや悪化し、来期は改善が見込まれるものの、依然としてマイナスである。夏季賞与では、1人当たり支給額は前年並みとなった。2018年度の採用者数は、業種別ではサービス業、履歴別では中途採用が最も多かった。大型連休については、業種により影響が分かれ、サービス業にはプラス、製造業や建設業にはマイナスとなった。今後も景気浮揚の決め手を欠く状況が続くと考えられる。

(勝池)

## 第 97 回企業動向アンケート結果（業種別）

		＜今期見込み＞				＜来期見通し＞			
		好転 増加 (A)	不変 (B)	悪化 減少 (C)	D I (A)-(C)	好転 増加 (A)	不変 (B)	悪化 減少 (C)	D I (A)-(C)
アンケート回答 企業の全般的業況	全 体	14	62	24	▲ 10	18	62	20	▲ 2
	製 造 業	16	59	25	▲ 9	17	61	22	▲ 5
	建 設 業	17	68	15	2	18	70	12	6
	卸 小 売 業	13	56	31	▲ 18	21	52	27	▲ 6
	サービス業	9	66	25	▲ 16	16	68	16	0
売上（出荷）高	全 体	19	52	29	▲ 10	19	60	21	▲ 2
	製 造 業	14	53	33	▲ 19	18	61	21	▲ 3
	建 設 業	26	57	17	9	21	65	14	7
	卸 小 売 業	20	44	36	▲ 16	21	48	31	▲ 10
	サービス業	16	55	29	▲ 13	15	69	16	▲ 1
経常利益	全 体	16	51	33	▲ 17	14	60	26	▲ 12
	製 造 業	13	50	37	▲ 24	11	61	28	▲ 17
	建 設 業	17	57	26	▲ 9	14	66	20	▲ 6
	卸 小 売 業	21	40	39	▲ 18	19	47	34	▲ 15
	サービス業	15	58	27	▲ 12	15	67	18	▲ 3
		現 状							
		楽 過剰 (A)	普 通 適正 (B)	苦 しい 不足 (C)	D I (A)-(C)				
資金繰り	全 体	21	64	15	6				
	製 造 業	18	61	21	▲ 3				
	建 設 業	21	73	6	15				
	卸 小 売 業	20	63	17	3				
	サービス業	25	59	16	9				
設備・店舗等	全 体	6	80	14	▲ 8				
	製 造 業	5	78	17	▲ 12				
	建 設 業	8	84	8	0				
	卸 小 売 業	7	77	16	▲ 9				
	サービス業	7	80	13	▲ 6				
雇用者数	全 体	4	40	56	▲ 52				
	製 造 業	2	46	52	▲ 50				
	建 設 業	8	24	68	▲ 60				
	卸 小 売 業	6	57	37	▲ 31				
	サービス業	2	27	71	▲ 69				

※回答社数構成比%  
D I は%ポイント